

INFORMATION

No. 29007

平成29年6月27日

検査受託開始のお知らせ

この度、下記項目を新たに受託開始いたしますのでご案内申し上げます。

記

【新規受託項目】

検査の手びき掲載頁	項目コード	検査項目 (別名)
未掲載	特 伝	臍グルカゴン
		GLP-1 (活性型)
		GLP (活性型)

※詳細につきましては、裏面をご参照下さい。

【受託開始日】 平成29年6月28日(水)



一般社団法人

福岡市医師会臨床検査センター

〒814-0001 福岡市早良区百道浜1丁目6番9号 TEL(092)852-1506 FAX(092)852-1510

●膵グルカゴン

グルカゴンは膵 α 細胞から分泌され、肝臓に作用し血中のグリコーゲン放出を促進する作用があります。糖尿病では食後のグルカゴン濃度上昇（分泌抑制できない）があるとされ、食後高血糖にはインスリン分泌不全とグルカゴン過剰分泌が関与しているという報告があります。

本検査は、血中に存在するグルカゴンと同様のアミノ酸配列をもつグルカゴン様ペプチドを測りこむことがないため、従来のRIAに比べてグルカゴンを特異的に測定することができます。糖尿病の病態把握や治療薬の選択に有用な検査として期待されています。

▼検査要項

検査項目名	膵グルカゴン
項目コード	特 伝
検体量	血漿 0.5mL
容 器	⑥ EDTA-2Na アプロチニン入り(検査の手びき掲載頁208P参照)
保存方法	凍 結
所要日数	6~12日
検査方法	ELISA
基準値(単位)	空腹時 5.4 ~ 55.0 (pg/mL)
検査実施料・判断料	150点、診療報酬区分D008(21)内分泌検査・※4生化学的検査(Ⅱ)
備 考	指定の容器(医師会⑥)に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離し、ただちに凍結保存してください。GLP-1、GIPと重複依頼される際はGLP-1、GIPの検体取り扱い方法にて採取した検体をご提出ください。

●参考文献

検査方法参考文献：稲垣 貴之他：医学と薬学72(3)：491~497,2015.

臨床的意義参考文献：河邊 顕他：日本臨床63(増8)：493~495,2005.

●GLP-1(活性型) / GIP(活性型)

GLP-1は小腸下部のL細胞から分泌され、膵 β 細胞からのインスリン分泌促進と膵 α 細胞からのグルカゴン分泌抑制の作用があり、さらに、中枢神経系での食欲抑制作用や胃からの消化物の排泄遅延作用、心保護作用などが報告されています。GIPは小腸上部のK細胞から食物の脂肪刺激により分泌され、GLP-1と同じように膵 β 細胞に作用しインスリンの分泌を促進しますが、この動きはGLP-1の方が数倍強いとされています。また、GIPには栄養素を脂肪細胞に蓄積する作用や骨芽細胞の機能を高めて骨へカルシウムを蓄積する作用なども報告されています。

▼検査要項

検査項目名	GLP-1(活性型)	GIP(活性型)
項目コード	特 伝	特 伝
検体量・容器	血漿(採取時DPP-IVinhibitor加) 各0.5mL ⑥ EDTA-2Na アプロチニン入り(検査の手びき掲載頁208P参照)	
保存方法	凍結保存	
所要日数	事前にご確認ください	
検査方法	ELISA	
基準値(単位)	なし	
検査実施料・判断料	—	
備 考	指定の容器(医師会⑥)に採血し、DPP-IVinhibitor(血液1.0mLに対し10 μ L)を加え、混和後冷却遠心し、血漿分離してただちに凍結保存してください。	

※添加用DPP-IVinhibitorは、医療機関にてご購入下さい。

※DPP-IVinhibitor入りの専用採血管(BD社：ベクトン・デッキンソン)の「P800(グルカゴン・GLP-1・GIP デスアシルグレリン)」にて採取された血漿は、膵グルカゴン、GLP-1(活性型)、GIP(活性型)の3項目全て測定可能です。

●参考文献

臨床的意義参考文献：松山 辰男：日本臨床68(増7)：533~536,2010.